

活動成果報告書

平成30年度（第22回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ

つながり、みんなで支える親子支援

～「さくらんぼ行って良かった！実りの教室」～

応募グループ名称及び氏名（グループの場合は代表者名）

富里市役所 健康福祉部 健康推進課 保健指導班

代表者：畔蒜 泰子

勤務先：富里市役所

所 属：健康福祉部 健康推進課 保健指導班

所在地：〒286-0221

千葉県富里市七栄652-1

TEL：0476-93-4121

FAX：0476-93-2422



◇活動方針

富里市における1歳6か月児健診は、発達や養育面などの問題から経過観察率は50%であり、その内訳は言葉の面、情緒の面などの行動の問題、養育の問題等である。健診の場面において、子どもとの遊び方や対応方法が分からないなど、育児に自信が持てないという相談や、発達に偏りがあり子ども自身が持つ問題から、育てにくさを感じつつも、どのように関わったら良いかわからない、などという保護者の相談が多く、その後の養育的な問題も子どもの発達の遅れにつながる要因の1つになっていると予測される。

本市では1歳6か月児健診から3歳児健診までの事後フォローの場として、さくらんぼ教室（親子支援教室）を実施している。遊びを通して子どもの成長を促すこと、また、保護者に対して具体的な関わり方を伝え、育児不安の軽減や自信につながり、よりよい親子関係が確立されることを目的として30年以上の歴史がある教室である。臨床発達心理士や保健師等の様々な専門職が入り、多角的なアプローチで育児支援を行っている。

活動成果報告書

◇活動内容とその成果

【活動内容】

対象… 2歳～3歳未満

実施回数…月1～2回実施。

関係職種…臨床発達心理士・保健師・保育士・言語聴覚士・管理栄養士・看護師・地区保健推進員・ボランティア。

プログラム内容…自由遊び、朝の挨拶、プログラム内容の確認、リトミック、スキンシップ遊び、課題遊び（小麦粉粘土など感覚を取り入れた遊び等）手作りおやつの紹介・提供、お誕生日会、卒業式、親教室（親子分離）、絵本の読み聞かせ、さよならの挨拶、カンファレンス（スタッフ間の情報共有、対象児に関する今後の方向性の検討を行っている。）

参加期間…原則半年としているが、子どもの発達状況や保護者の心配度合に応じて参加期間の延長を行っている。

随時面接や発達相談を案内し、評価を行っている。

必要な方には療育機関等次のステップにつなげることで、安心して卒業できるように努めている。

【活動成果】

○実施状況

年度	参加者数		実施回数
	実数	延数	
平成 29 年度	51 組 (293 人)	254 組 (525 人)	20 回
平成 28 年度	42 組 (103 人)	286 組 (566 人)	20 回
平成 27 年度	39 組 (101 人)	251 組 (580 人)	20 回

※括弧内の数字は、対象児・親・兄弟を含む。

○卒業者の経過（平成 29 年度 卒業者 35 名の内訳）

3歳児健診で確認 12名, マザーズホーム 7名, 児童発達支援事業者 1名, 親子支援教室 1名, 母管理 14名

・親教室や保護者記入用紙、おたより、スタッフとの相談を通して、保護者はお子さんの現状から成長した部分や今の課題を見つけ、目的意識を持って参加している。教室で行った遊びをお家でも取り入れてみようという動機づけになっている。

・今年度より視覚支援カードを取り入れた。教室開始前や教室中に絵カードを見ている親子が多い。お子さんが見通しを持つことにつながることや、気持ちの切り替えのツールになっているように感じる。教室開始前に絵カードで流れを伝えたところ、お友達の輪から飛び出しが減ったという意見が聞かれ、保護者にもわかりやすく効果的であった。

・手作りおやつの提供では、保護者が簡単なので作ってみた。今まで食べなかったおやつをお子さんが自分から食べてくれた。と言った声が聞かれる。また、集団でおやつを食べることを通してルールを学ぶ機会となっている。

・参加者と関係を築きながら、卒業前後に発達相談を案内している。お子さんの成長発達を客観的に知る機会となっており、必要な方へは療育機関等につなげることで、お子さんの発達を促すことができた。

・就園児に関しては、巡回相談時に園での様子を把握し、園と連携を取りながら支援をしている。

活動成果報告書

◇今後の計画

○参加者に向けて

- ・毎月おたよりを発行することで、活動の意味合いを伝えていく。(図1)
- ・親教室では活動の振り返りの時間を設けており、活動の意味合いがつながるように支援している。また、保護者記入用紙では、教室内でのお子さんの状況や近況を記入してもらい、保健師から返信することでフィードバックを行っていく。(図2)
- ・手作りのおやつを提供している。また、食育の時間を設けることで、その後の集団生活に適應できるように支援を行っていく。
- ・今後も保護者からの相談内容によって専門職の特色を生かしたアドバイスを行っていく。
- ・引き続き、関係機関と連携をとりながら発達課題や育児不安を抱える親子に対し、支援を行っていく。
- ・卒業後の評価方法として発達検査を取り入れ、その個別支援につなげていく。

○事業充実にに向けて

- ・プログラム内容は家庭でもできる遊びや、季節感のある行事を取り入れていく。
- ・視覚支援カードを取り入れていく。プログラム内容を事前にお子さんに伝えることで、見通しが持てるようになり、活動へスムーズに参加できるようになると目標とする。
- ・発達段階に応じたおもちゃを取り入れるなど環境整備を行っていききたい。自由遊びやプログラムで使用する。おもちゃ、絵本や遊具の購入を検討している。
- ・今年度から地区担当制を導入している。早めに地区担当保健師と顔つなぎができ、関係性を構築していく。1歳6か月健診の時点で経過観察率が高いため、乳児期にもっとアプローチができればと思うが、マンパワー不足からアプローチ方法については検討が必要だと考える。

図1. さくらんぼ教室たより

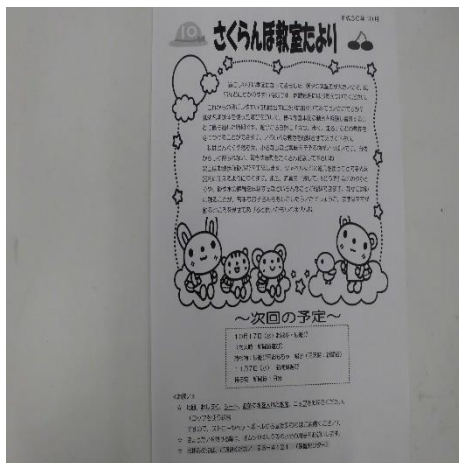


図2. 保護者記入用紙

